大福弟社考

竹柴蔵書
4349

へ7
4349

成之年

大阪市
奈河晴助
板布橋町

竹深

東京大学史料編纂所
庫文書目録

本武

序

大福神社考

奈河晴助

仏法義を本
雲とひきて市成ことば外天文書ばかりを
て水をこれば多世つたかたを
家をこれば外を
うるべでや人生六十一世
せうう自二年雲ばかり
かうせうをあひこれば
とたかせあひとうをこれ

板人はまるば

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちとけ初めてくれ竹の節ごとに
ふしてしのびあまとこうろ
ぶくうちとけてうそひて
ねたくなりぬとくいちの
花を折りて君に送るとて
まこれ花をとりあまとこの
枝わうれはるや春の夫
はなかくまのびわるれはるや春
をとりあはとをもきんうあれも今一度はとをうへ
をもあへやとあさむるをもつまひつ君帝高つる

帝じ元年ようぼうとれかうろやめうをあ
かれ春はのぐとあきくれ間ゆ春のあり人は蓮を
かげ第とれば春風三月をとをはらて花うれ春
をあへ玉井を花まる千年人は蓮と見ちん中人
春とぶ元年はたきかうれはゆえとかよ
春とのトかえぐ実みをちあさうど
き出をあひやりくの夏新いをひで皇をあよ
の花として第をあぎすと新宿あ基のあぎ

御ふ倫ゑとうとまつりふ（たゝ）ぞいまうくれ義まてぞひ
らんけて三ゑ三ゑ三ゑ

やがて位うづくまるべし
ありがたきあまとなれども奉行さうこうのごえ
いつ今こそ寄まりかつく者もあれば棒押者ごとに
形ばかりまゝ兵法の一ふり信義を表つゝ者神分ばかりして
医ゞ十三才より世そだちあり今年十九まるがつ
乃はかりとまり生ちる信義をうまれ者くもい
ものあるべき義をもつ方をもつ人をもつ仕
ぬ人びとをもつくはなる仕をもつ仕
人形にて中ゐふりし者をもつとも其極意相
通ずゆとよへ極意相通ずゆゆ仕ゆ生
まれ出ぬ者ゆ仕ゆ生ゆ
てゐるを人生十一世人生者者流とゐ
ぬ人生のすてゐるゆ
とゐ捨て出ぬ者ゆ仕ゆ
ゐを稱ゆ下ゆ者ゆ者ゆ
ぬとそゐゐゐゐ仕ゆ

よるとなくなくひとりのたんごくにゆきてうつ
ゆをそなたのもとへ今はこれまでとて
さうもくをよるそひとりとなりて
ぜつぜつとなりてそうもくの
ぜつぜつとなりてそうもくの
ゆをそなたのもとへ今はこれまでとて
ゆをそなたのもとへ今はこれまでとて
ゆをそなたのもとへ今はこれまでとて

義朝とゞまる事なし。家子郎等ども、
てゝをうばひ、女房をさうしてあひ
ゐてのぼれとぞ、ひつくくすゝめ
もどしたりけれども、そのおとりいふ
ぜうやくと、ゐたりけれども、そ
女房をとりこめ、天竺・唐土・日本
をあつかうどもこれ
かゆうとぞ、ゐたりけれ

ゐたりけれ、ゐたりけれ
もとゞまりゐたりけれ
つかとゞまりゐたりけ
いふまでもなき事
義朝をゐてのぼれ
とゞまりゐたりけ
ゐたりけれ、ゐたりけ
ゐたりけれ、ゐたりけ
ゐたりけれ、ゐたりけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かんてんのもとからとのせれまで置よと言ふ
そ者のとゝろそなてゆ別まゝ老者とひそか
ひつかゝれな天上ひとむねれ宮てゝ雲也
まゝ者ひとゝ付しゝとまひ置ひと世百人さの
あゝゝ歌ゝゝとゝあゝゝ親文書ひとん
と合そかゝむゝ乗ゝゝのゝゝとゝむゝらゝ
いゝゝゝゝ三重ゝゝゝゝ

ぞんじまいらせ候て過ぎ候はゝ
あなかしこ　大ねんぶつの
をしへをうけたまはりて
ちからをえ　主殿とうの
ゆきをかつぎ八人ぶんを
ぬきとりて　今日まで三年ぶ
けなり　ゆくすえ
をかなしびさうらへ

ぶつぐしたまはるとぶつ
きをねをてやうけ
ぶつそくしるし
かくて後世菩提
せさせ給へとかうほう
そうねんしてうあひ
あひ　はゝ　ぶつ同じ
夫うたとうかりたる

三重

中
まるの城よりはじめて
たけを越えたるあれば十せんの松原よりひさうぶと
三百よ丈ばかりとぞうてうさぐりをつまんとぬりへ
一乃丈ばかりもつもあるかぐぶどあさぐれらとりとさ
ぶどう細わりくをとれらどとりもくとりとぐりと
あるそらあるばかりをそやうしんうのまとり毎日
なれたりとあれば後者ちがうぐどりうがまれ影は
まるとんぐまりちつまんりあるめらがあて仏

用ありつづもりどりたのぐ
とそれば後ちがかもびりつ
さりらりやくそこまあ
後大ちかりはりかとこ
かりたりりりぐりりの車切
ちるくと
三重
みりりはは月がりあまりれ宮
ちりりりさりりりりぐ
りりやもりりりりりりりの

うとうたうひもおたくとかけるをくかれるをくを
けう松の下枝のたくさんづ
ゐてきづてこは松
たとをしりとりもとりとよびりど
下くねりいぐくのそこづくの松のうしまの
あるものとわてこれなとあ西京にかう男松づ
なごれまんぐらくそて松くあ出れこのふもを
つくりこちはのあの老大はるやあ

ねこうあやこそこれもあ
とりて生西のあ老あくあ今のあ命老ゑを
らあるりあるあ為くそやとよ武あれや
きとのあど文自方にはるる老ゑが悪逆
ふあそこれ西ひは別まつ
てはらくよ松るであ
ん武西男あくそこてはりうれぞ武
ひ世の人大世員ばいあてやふあの西りぼを

けいあるしばしばうでたるうるのそなたにうかがうまそなたにうかがうまそなたにうかがうま

いつわりこうあつまりもやまし
こうべのそうりょうまいておみかく
というまだ六ばかりくと一寸の間に奉がわるまいと
はかりてもり殺すとこうそれ
どうくはばくりたりとけてやらんと重じ
かり男さまんを言うて
もしかの男のうたまあるさうおもせ先生奉
わがせのひとをとりこしてしろ奉

とうをあつろまとびとむとかくまて常言
ウ
もそこうぶつろうかりとていうしそ
もあるてあるもいかてい女房こうどうれあ
あの独りあるもし三重
て人ふおやきかどうを切りやりくてい
実ぶ出まをくうかれば対おれ歌学ろ
てあるくはれまに対どもそこまろ秀ものど
ろ言ろこくはて死ぐろあるそも先のま

ら夏もいらぬ世にあるまじ他人の山城
ある年より相ぐほいとあてはまけりめ伝兵
大をふつとよく（いや）つもよ（ごと）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）山城
人と服ごろみてんてぎるか（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ひ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）

男ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）
ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）

第二

[illegible]

[illegible]

てどのがべのうめのはのをとりあはせがほどこ
ちまさむとのうせどもかうめのとのあるとき
あぎこのいらせたるすぞもあくとこけびめたるやか
まひさうぎのうかひそ袋れまつわそをこがふ
とるる迎わけ十とれかせうの女初の第とをとの
みぐてをあつもやあげをそかあれのとの姫を
ひつそもめれとなせんをこ源よこれなの姫角猪く
はのごまをせあ今てむうひて第とひをそ第

ふ三疊ばかりかそ実だとれおれをとりれ年法よ
一百宿家とうれ宿方ひ食はくかをそ夜者
ぐ祖ぐ姫とおぐくをそまくまんを今やくくを結
ねうおくうや姫若ひのざうれ食乞ろ
食をうれぐ祖ぐ行おつちたくぎれさそやげ夜
なとうまうびくあれ年ぐあ母めとぐ
ぐうぐそこをを変うけかと人めもつわかちぐ
ぬあつふかきつけくとかれるのあどどぐ付でぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おうあれば、世中と親まうと合きてとまけ
ばこのひ色ぞおのれのかぐうまうつうつ祈
ばこのさぐれば程きぐくもとたの海とおぐ
ぐうとやうげとそうあうとやとくとれるとまり
情くりのくもあ和もとかり付んとかぐよ
つ末れをこれぐてれとおうを末和のの
おうとそ消おうく母大親ともうぐさぐもうさ
わうぐどみうう先よきぐひ色ともいせどとぐ付変
もとまどこ色ぐ和ぐ当ぐあ元人百
ひあれとうこうとうぐめぐやあげう色
ぐ世ぐうあ流命ぐとしかとそせあひて親よ
元ぐうあれうぐやぐふ春とかうめどのさ百
おそうこぐ月よ角よぐ切ゆせあ中ぐ
きぐ和ぐもあれうぐ上ぐうめんぐきくとう
つとそぐりあ月ぐ中ぐ西春たまぐ家けぐ
切おそぐかぐの居とうぐ穴ぐ家れぐさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の塩梅とて西宮殿御代
宮殿とそだて給ふ是は
扨もつぎの新しき
志の出来ぬる様は
二重三重切とむ
もしもれば
打ひろげ
なり
なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はなをとりあてだいりゐ龍宮
とまをしけるまくはのそこ高
ゑ形をうつしまつべし跡
うつ戸川の九ゝ郎ゐ付うまを
ゝとをとりて来ぐ者ゝ
ゝとをとりて来ぐ者ゝ
ゝとをとりて来ぐ者ゝ

[illegible]戸川より相模[illegible]
[illegible]海まで[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちがてもてと切ってと言わせてちやうくと切くとな
せど濁も清べ新とかよまう繁び大言うきも
詩博まくまうう毒を付れう詩女ばくほま
まで繁弱こがのうじ日めまうう毒とあ毒花
神女花びあうまと出物武和美花とふく詩文
せ毒まうまうう花びあう手をもこがもいく稲うきみが
せるうちんはまあそな毒花んでけうあわ先
はうあうう花あうそあう花毒美詩也
んとうとこ毒神あうう毒かうらあうそ神ばうくと
あ毒原みうう五樹も原もの樹と毒花
たうみうう毒まうあうどうぜとて立
うはかうぐ日めまけくぐそ樹繁うう樹
日数毒も花毒花先の毒あうまれうこば色
毒はと見うう樹毒ふとくふ三重詩うう戸川ふう
光毒うう花毒とうう日くく濁まう出帯はけ毒の
入れ新番ふう毒花と花先ふ武毒文濁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はぐ姫はなのうつもふゆくさのわすいや
きうるれはうちもきうるんかそうとだかの
みやをかのめぐぶうぐぶれくみうらとまび
出あかれあり　さまそたぐうとうんはぐか
のぐたいなとぐれあひのやとんんもれ新
ひうさうさぐうらしそうをうより梅のをうろ
とところぐふうとれかもきづふぐたうふ
まれかうとあとりうりうぐひまぐ

山あうと日ふけうひうくちりうぐうづもりぐうふ
うもまうとたぐうびそうまわうれなぐうろ
やうれうり松のうをぐうとりふ松ううぐうと
ぐどうれまくとんうもううの八ををとあ
ひうぐうまふをうみふれどちうぐうぐれと
せれうりとりぐうやうそよゆうをうか
人とうぐうまくうれうびよをづうをわうあうと
うろうをうちうをとりうりうりとぐうれうり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きぬぎりに義信たち
ものとおもひ給へ
ばかりの事にて
はかなくもあるかな
地ちやうの人天
てのもとにまゐるべき
うけ給はるとかく
あるべきやうにかくとこそ
おもひ給へ
らんずるに一度
今度誘引
様にやとこそ
でふとりあつかひ
く誘様に
あまたよりびと
乃たちにこそ
きぬぎぬ
まつぼうみ
おろしぬ

きこえつるまでこれはいかなるものぞ
かぐやこれはいかなるものぞとこそ
まどへ
まうでくこれはいかなるものぞとこそ
きこえてとりあつかひ
きこえとりてそまつりあつかひ
てまどはせそうふ侍そうまさそ
今自はさいこ者用かけくゆくとそ
(重)まつ人はとあつめそひで者うつ
よと侍まとうれいでまうは 三重

とりあへずやどをもとめ越路の海に舟を浮べ
ゆくすゑはるかなる波のうへにうかびつゝ
まだあけぬ夜の月にあかつきの雲をあ
むしたるそらにかすかなるこゑをきゝ
ゆくてあるる車もくるまもくく
にぎやかなるうまもうまもくく
やまとゆきかふ人をとゝのへ
きさらぎ廿三日の夕ぐれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

社をこそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

うてまつりとてあるべきものなりとよく
をしへたまへるとぞ聞えしかの歌の
かたちは基俊の方にまさりたる人
とぞ申しける京極殿はおほやけ
はえんなむとかたらひたまひ
まのあらがきどころ八重なる女郎花
をしなべて花さき盛りなる
あだやたのもしや今は女もさぞ成れうらび

あるべきとぞ思ひたまへしかひ
ひとりぬる夜とあれど
ひとりぬる女房と合点
ぬるもいやまさるものをと
ぬしの歌ありとぞ
かりの宿りにあまたをしてをしの
ねをなくなるかなとぞ
二つ三つ色づきたるもみぢ
どもあるやうにもみぢ
ひのきかもとにやまぶきの
ぬのきかもとにやまぶきの

神法ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えんかをとりけうり石雲はるゝ
きはのざうぞうぞ
あまんぜ
もくまたはさるとそろ
とうやの打浦は老
はのがあもくまるくろこの
はのうの大勝ぶまれえんかまは
いぞおかそうりけうぞ
とをまはもるも

おかをはるとの
はるはからみはく
きそそをあまるはの
おくをの軍はるとを
様うくもうが打出
びくおもくをのはの
おはるがくみそあが
はの勝一万よき同

三重
たるはの軍

そこなりまうすまうすまうす

仏の門に入りぬるを見て、
もの思ひもなきに、三人
と共に、人まねびて、
三部の経を、
と、
いかに、三人、
うきぬ、
きそ、
すすめ、
の海を、

けうこの義にあらざれば二人ともにあるべからざるこの
前にて切先を揃へぬさ無禄とよばれる事
勇門を儀義をうけ対面とよばれる所の
神てひ所出ぬ所でうく義をうとなる
入くかたちも死を覚をうとげはの事ん海をく
よりも度軍にうてかいちばんあるこの庵去らく武勇さ
ひまれなる勇士をと老称を得をうてうまさ
らあるりきり

第八

世の中のいとをもの絵とれる
かとうり梅のかの所をもひもうの意さ称ろ
ほど死常のれとまろ称ごうもあり家枕をを
あひあひとうのむとこうまれ枕ごとこをとうふ
ほどのうごこれく絵の女とうもうきれ家ろせざる
つとをもうひるりあるまきれ神ましてを稱さまて多
むとびわれなよ海まの
ひまりれ言婦の所出義親
ひいばうれ戸川九郎兵衛ひばうば

仁とうのもの、ぞ、ぞ、ぞ

禁中より仰せ蒙られまゐらせんと
男大ごと奏聞ありけるに
やうやう十七人酒宴に
諸所の車やりたてぎまとでよかりとこそ
ぢうしあるべき男それ
なほ冠をかうぶりたる
かの高さ
やとは衣と冠とをぬぎ
もとあるべき
ぬぎ
奏聞
中
中
中

[illegible]
今日も沖へ出入りの私は舟[illegible]
[illegible]と行付けの私一そう[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝびむかしをしがるやうにせめてやあるとばかりを
をぢのあるを聞かつぎや皇子海中ふかくに入せたまひ
けるを機よりとゝぎすをとゝやうにそうれ金
出家の義をしらせ給ふ西の京にゝ言ばを
ものがたりかたり天子よりはじめ雑わらはあるとのひ
はなをとゝ再度まうしたまへ神代にもむかしはまれなりと
号をのぶ自然をとを驚嘆なんと奉げをを対
はそのをゆるむりをもんをもりをと行ぶ貴女誘
ひつ過ものりをるをはこをれるをく紙うまり松をあるが
わをを家歌をあるはりをとりをとをまを
神はあるををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]